

# 資料 2

## 転入・転出アンケート結果分析（平成 30 年度実施分）

### 1 実施状況

#### ・実施市町

甲賀市、高島市、東近江市、米原市、日野町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町

#### ・実施期間

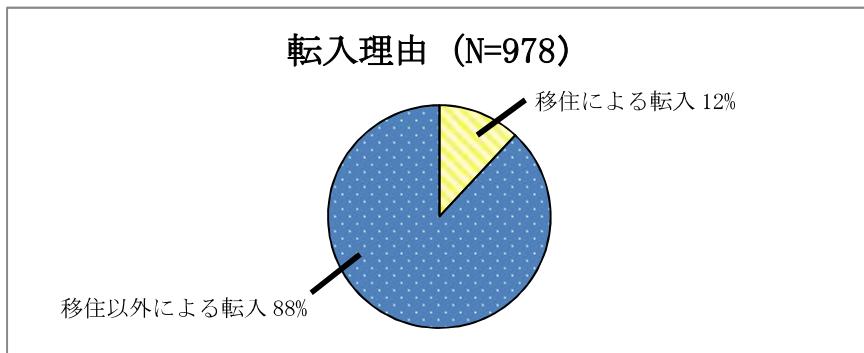
平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月まで

#### ・実施方法

各市町の転入・転出手続窓口課にて、転入・転出届とあわせてアンケートを記入していただく。各市町から集計データおよびアンケート用紙を回収し、県にて集計。結果を各市町にフィードバックする。

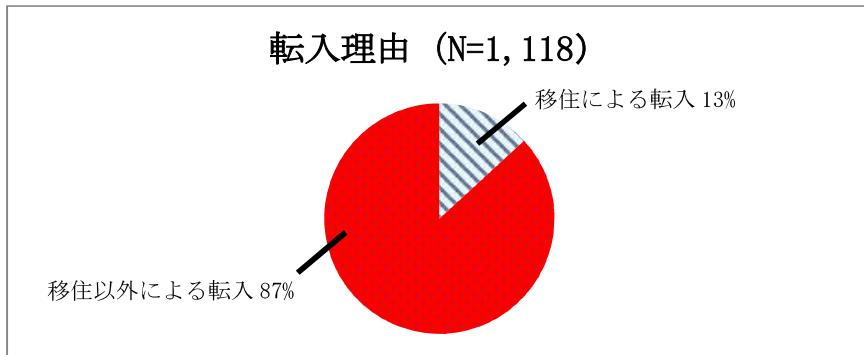
### 2-1 転入（滋賀県全体）

#### ・滋賀県への転入理由



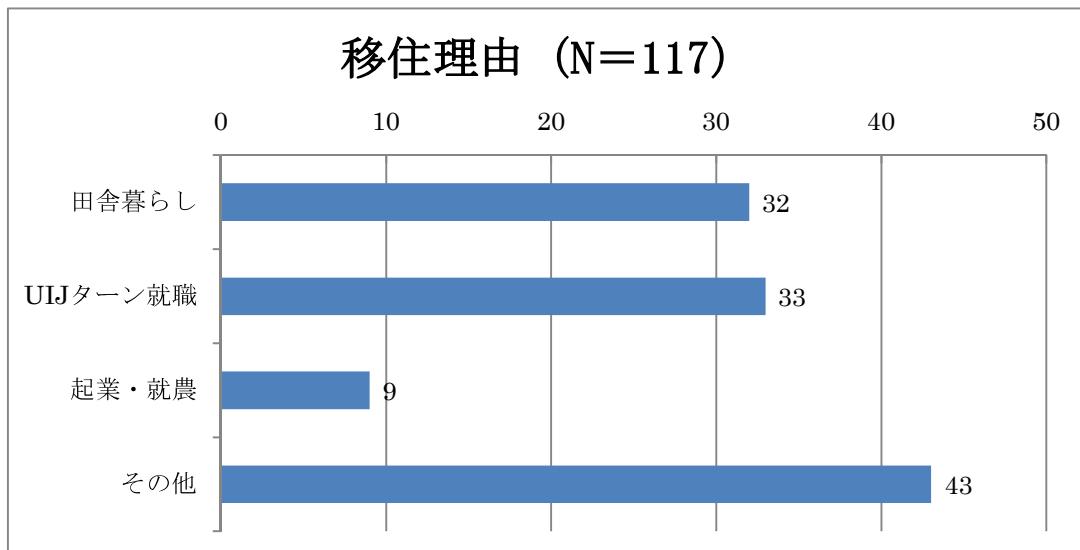
978 人の回答があり、88%が移住以外を理由とする転入であった。

#### ・参考（平成 29 年度）

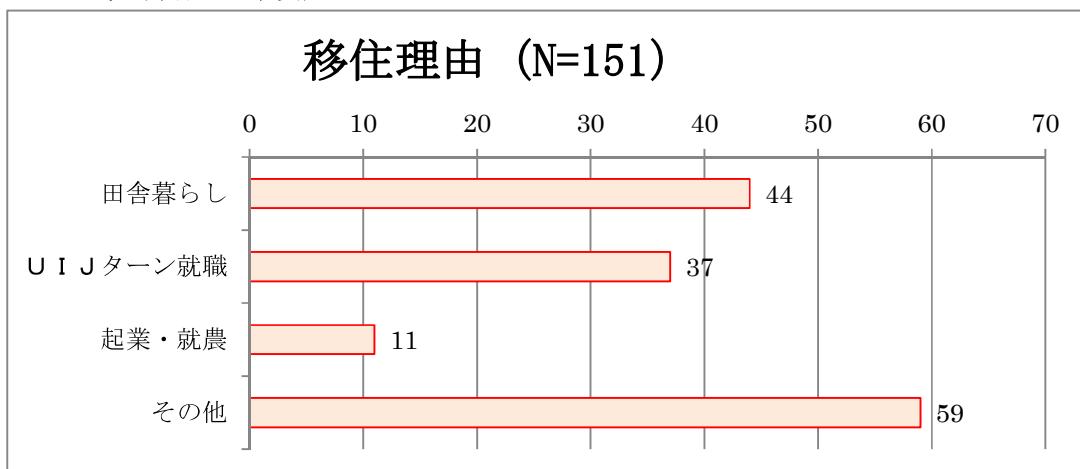


1,118 人の回答があり、87%が移住以外を理由とする転入であった。

・移住を理由とする転入者（以下「移住者」とする。）の移住理由



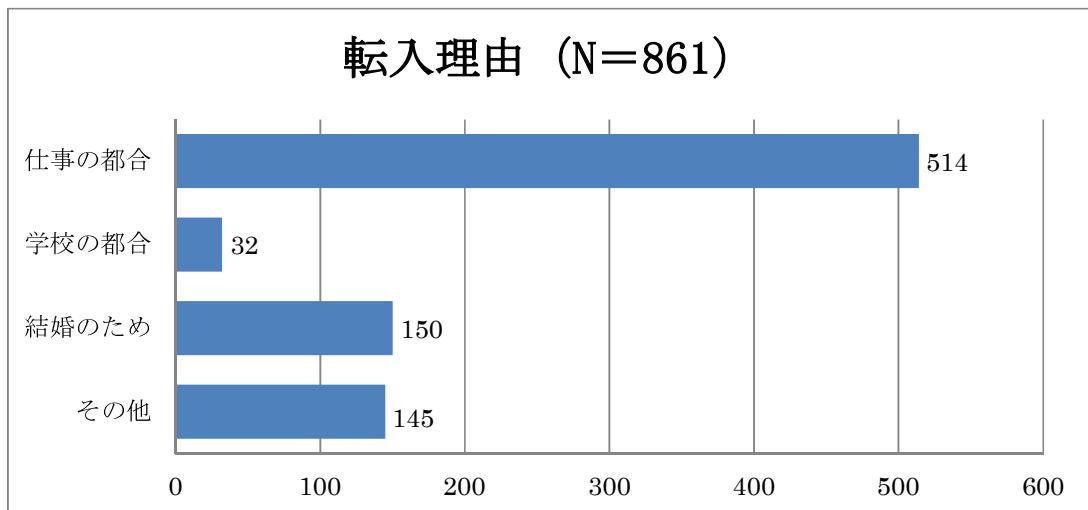
・参考（平成 29 年度）



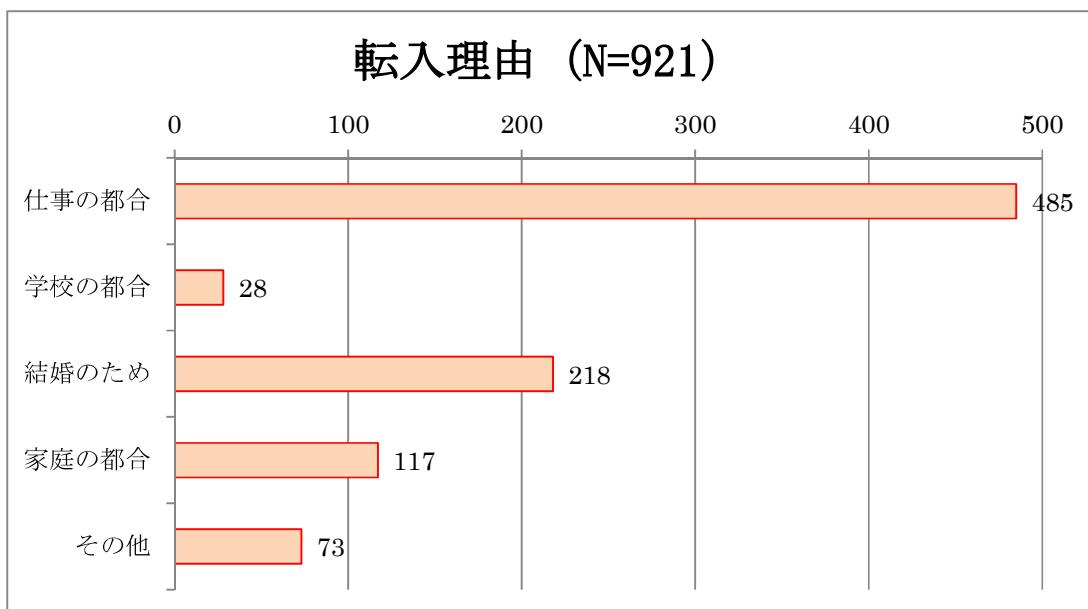
その他を除き「UIJ ターン就職」が最も多く、次いで「田舎暮らし」が多い結果となった。

平成 29 年度の結果と比較すると「田舎暮らし」と「UIJ ターン就職」との割合が逆転しており、「UIJ ターン就職」で移住される割合が増加している。

・移住以外を理由とする転入者の転入理由

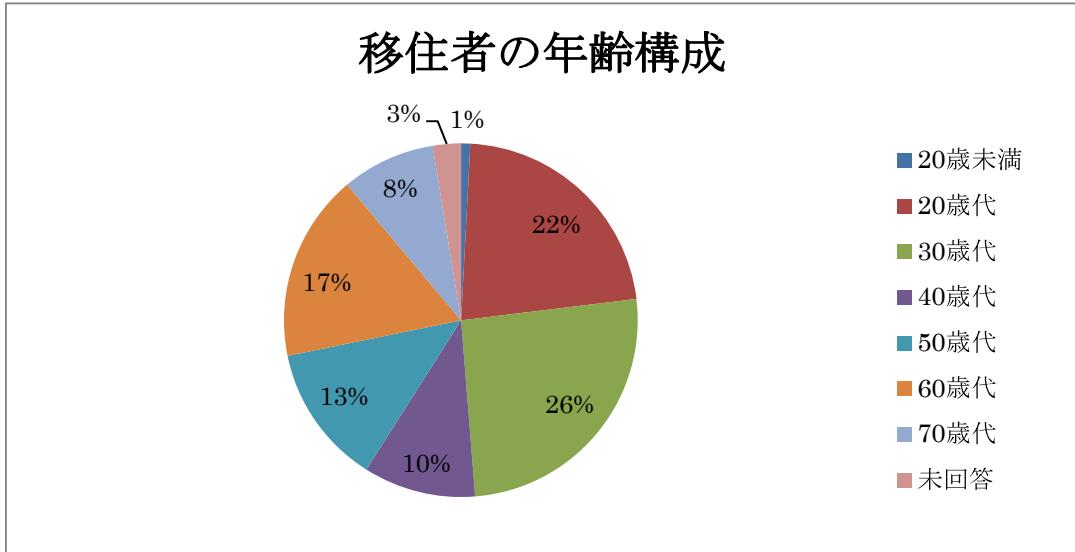


・参考 (平成 29 年度)



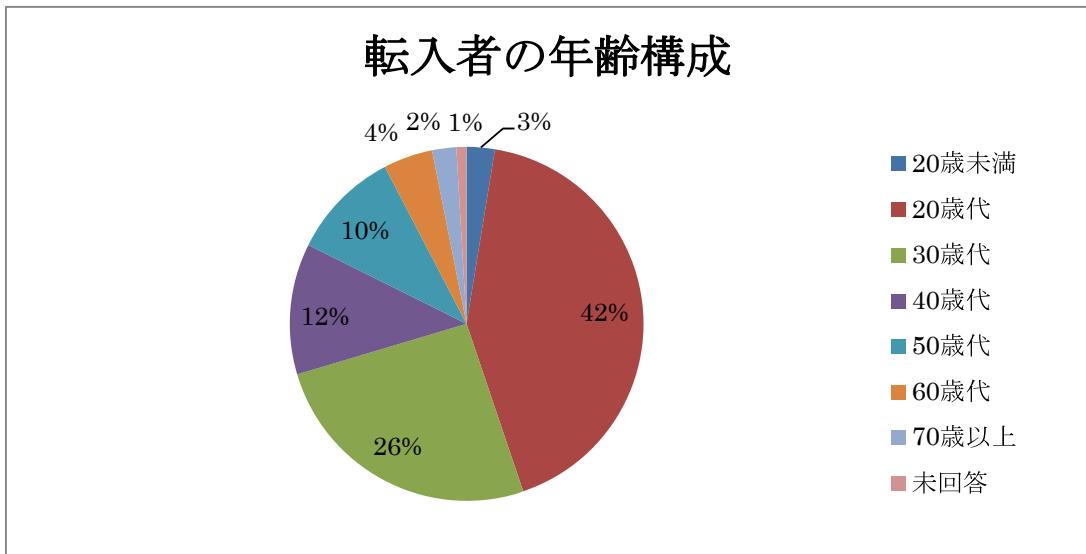
「仕事の都合」が最も多く、次いで「結婚のため」が多い結果となった。  
平成 29 年度と同じ傾向である。

・移住者の年齢（世帯主）構成



「30 歳代」が最も多く、次いで「20 歳代」が多い結果となった。移住者の約半数を 30 歳代以下が占める結果となった。

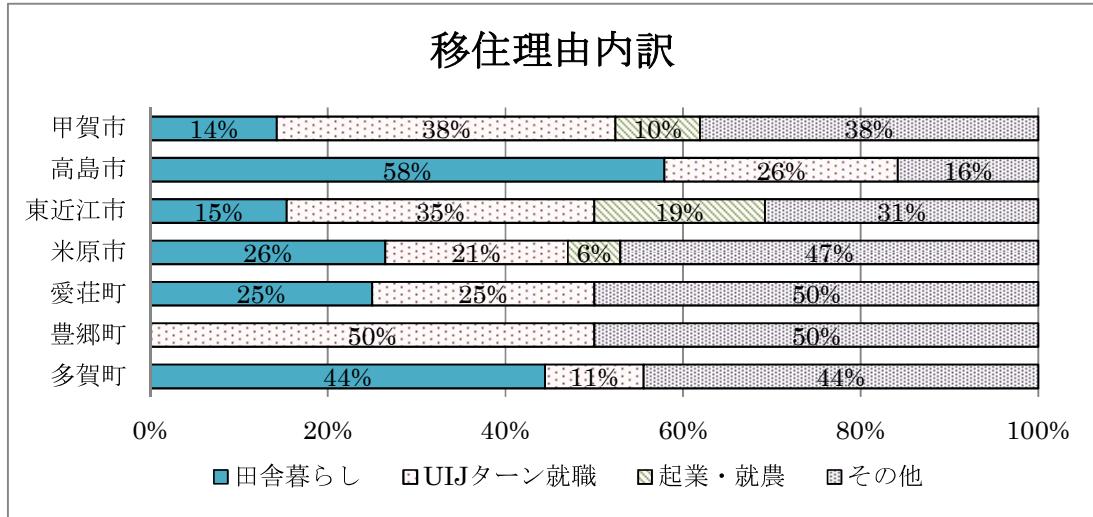
・移住者以外の転入者の年齢（世帯主）構成



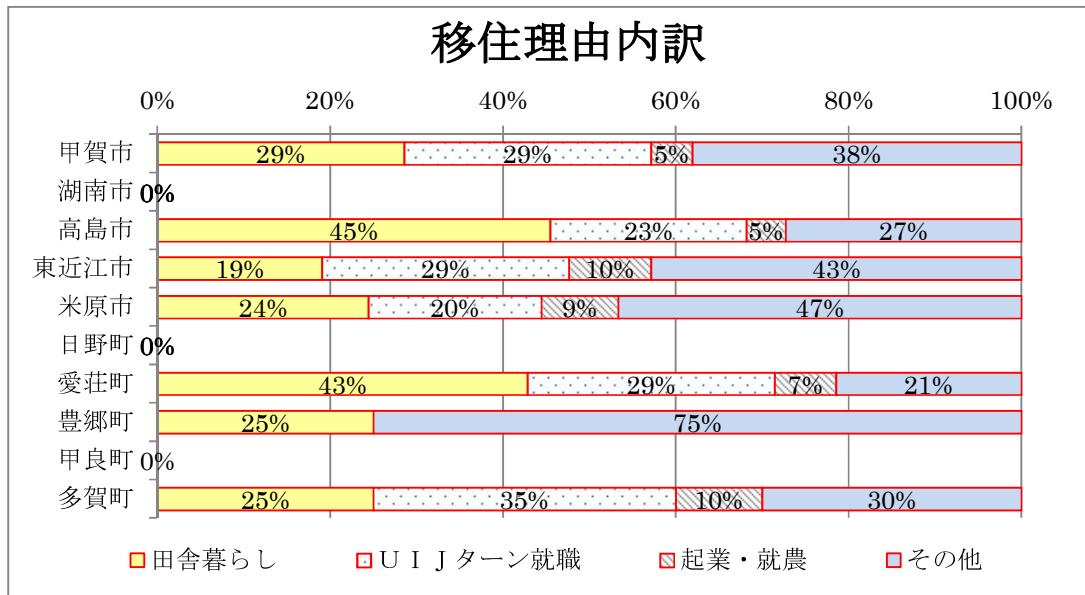
「20 歳代」が最も多く、次いで「30 歳代」が多い結果となった。移住者の年齢構成と比較すると、40 歳以上の割合が少ない。

## 2-2 転入（各市町別の移住・転入理由）

### ・移住者の移住理由内訳



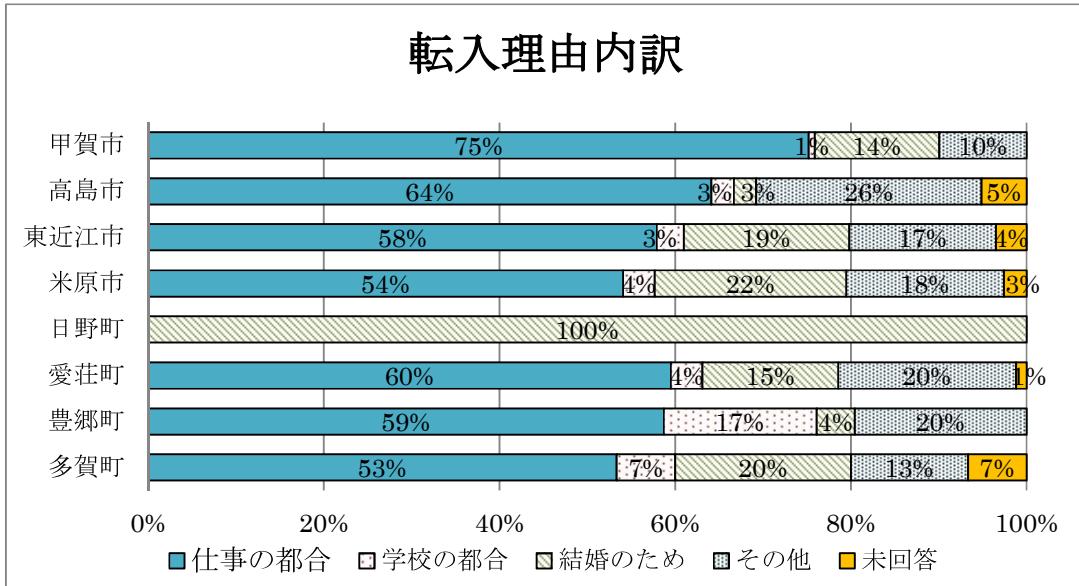
・参考（平成 29 年度）



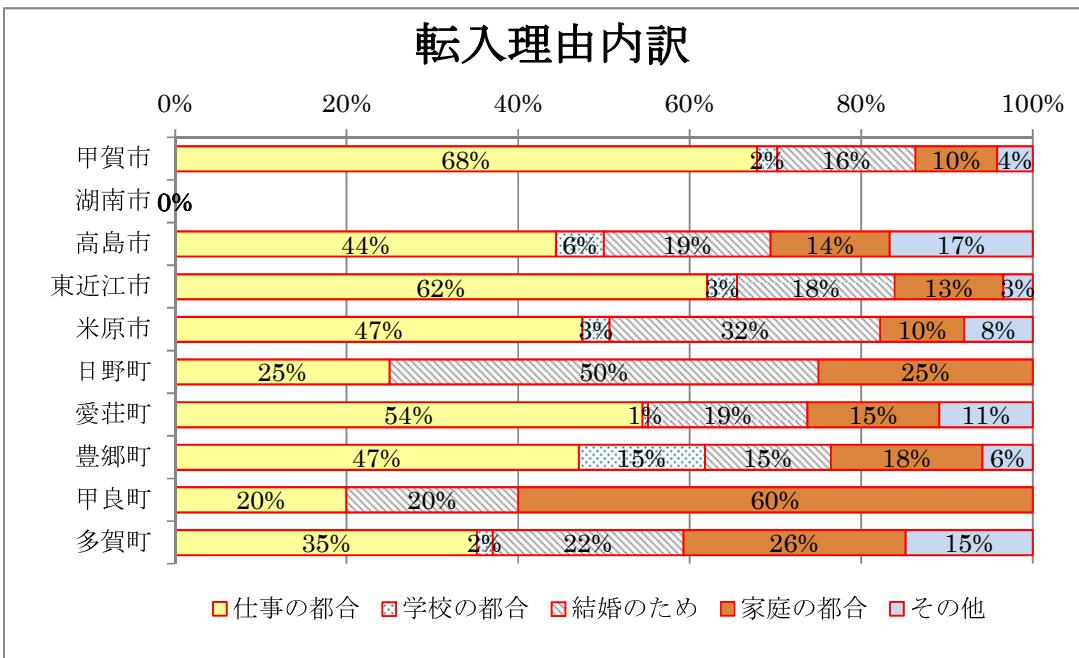
高島市については「田舎暮らし」の回答が他市町と比較して多い。甲賀市および東近江市については「UIJ ターン就職」の回答が最も多い結果となった。愛荘町、豊郷町および多賀町については「起業・就農」を理由とする移住者はいなかった。

平成 29 年度の結果と比較すると、高島市および多賀町は「田舎暮らし」の割合が増加している。甲賀市および東近江市は「起業・就農」の割合が増加している。

・移住者以外の転入者の転入理由内訳



・参考（平成 29 年度）

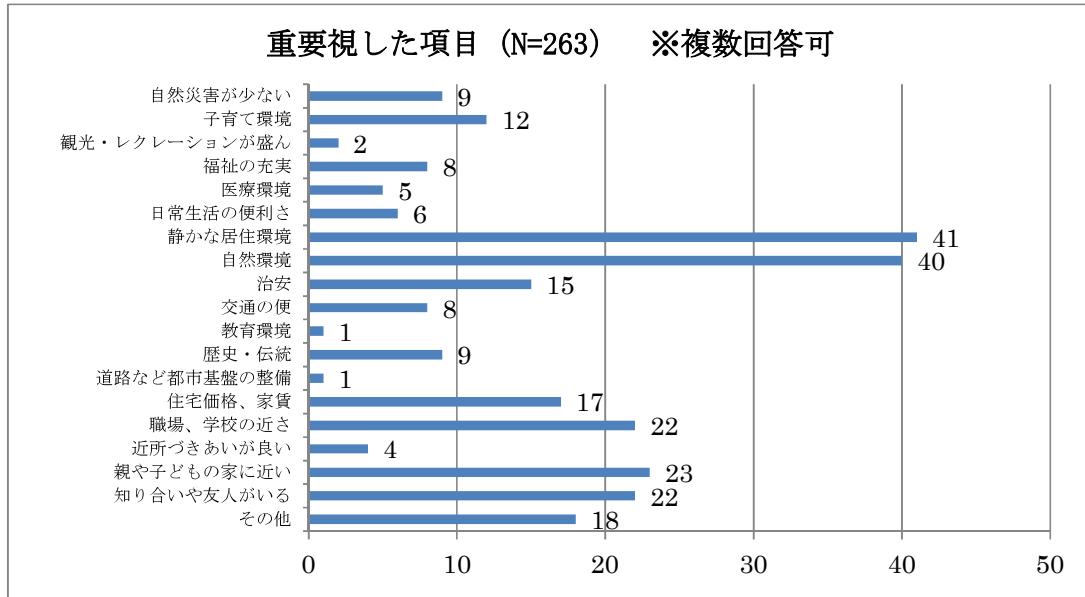


日野町を除く全市町が「仕事の都合」が最も多い結果となった。「結婚のため」を理由とした転入も多い。

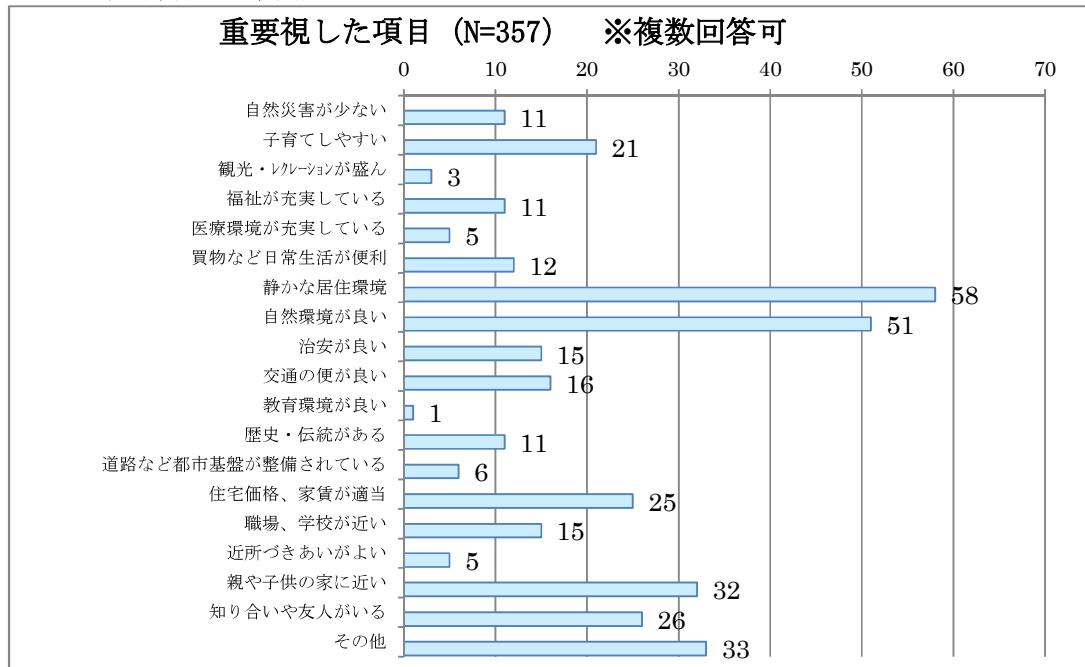
平成 29 年度とほぼ同じ傾向である。

## 2-3 転入（移住・転入するにあたり重要視した項目）

### ・移住者が重要視した項目



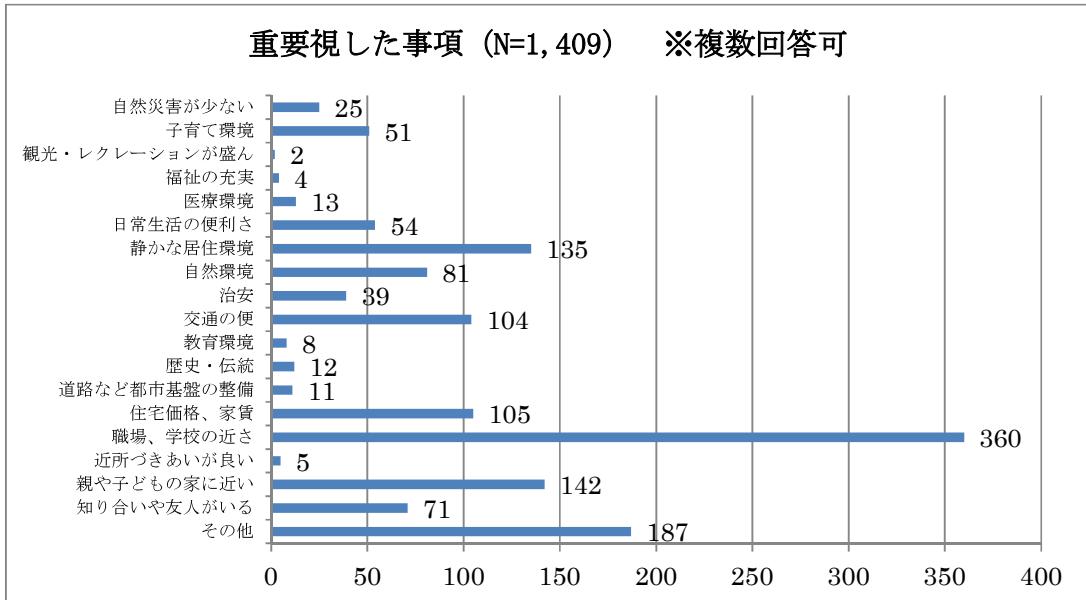
### ・参考（平成 29 年度）



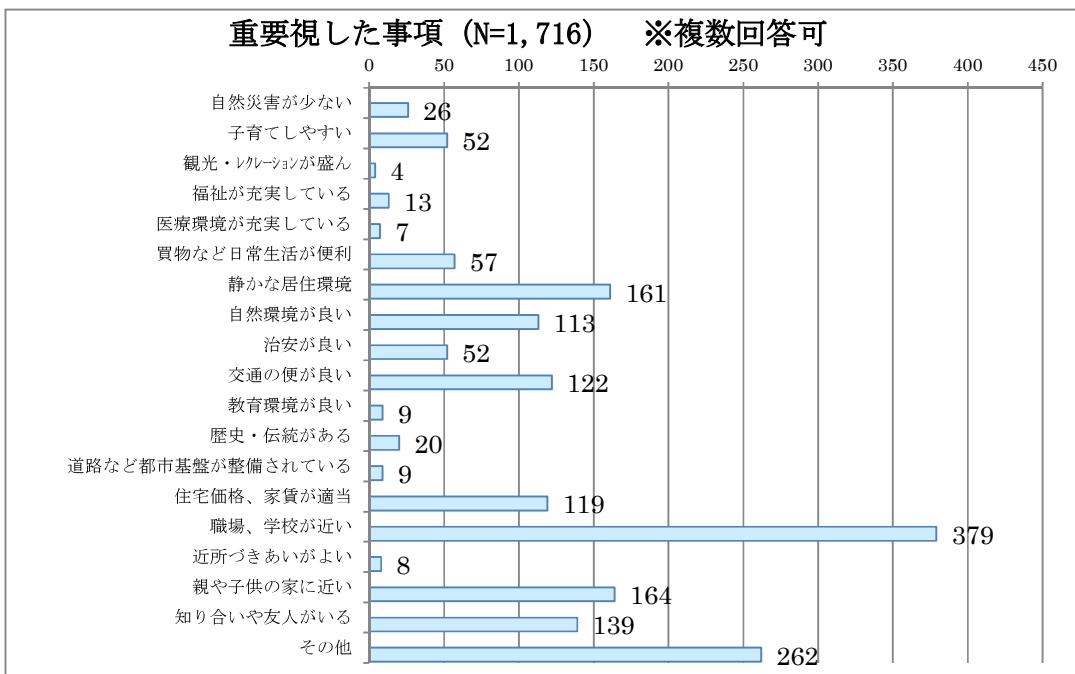
上位 3 項目は「静かな居住環境」、「自然環境」、「親や子どもの家に近い」となっている。

平成 29 年度上位であった項目が、平成 30 年度においても上位となった。

・転入者が重要視した項目



・参考（平成 29 年度）

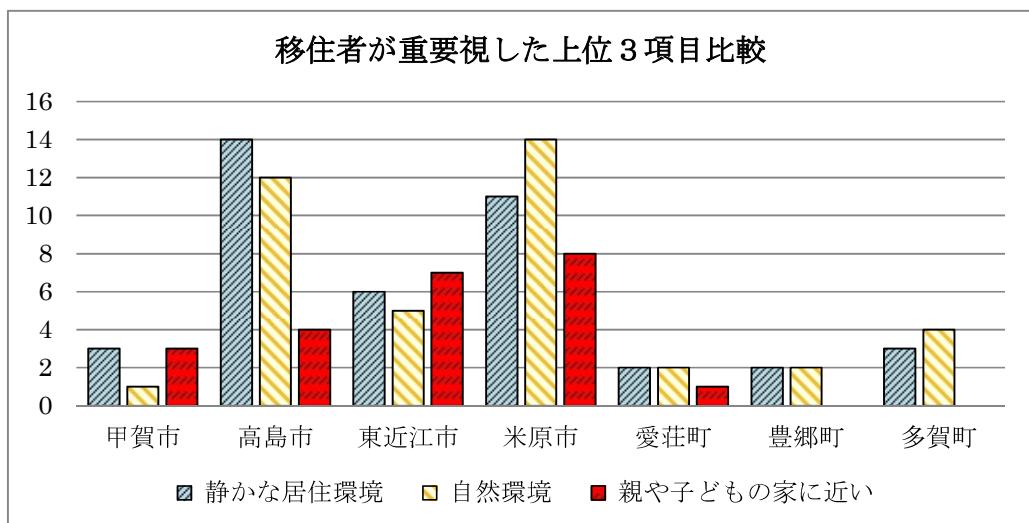


上位 3 項目は、その他を除き「職場、学校の近さ」、「親や子どもの家に近い」、「静かな居住環境」であった。

平成 29 年度上位であった項目が、平成 30 年度においても上位となった。

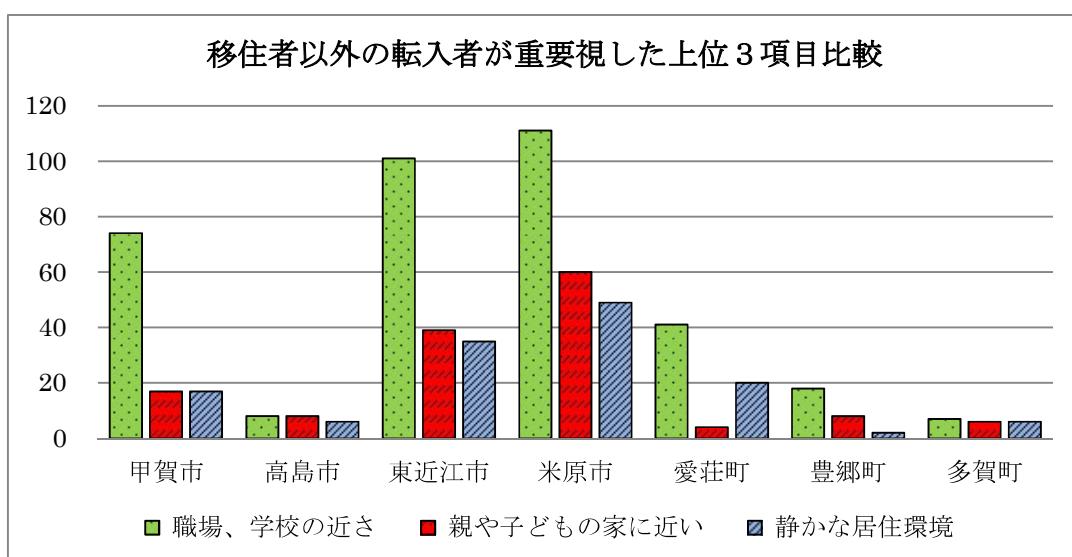
## 2-4 転入（移住・転入するにあたり重要視した上位3項目の各市町比較）

### ・移住するにあたり重要視した項目



「自然環境」が最も多かったのは米原市および多賀町であった。「静かな居住環境」が最も多かったのは高島市であった。「親や子どもの家に近い」が最も多かったのは東近江市であった。

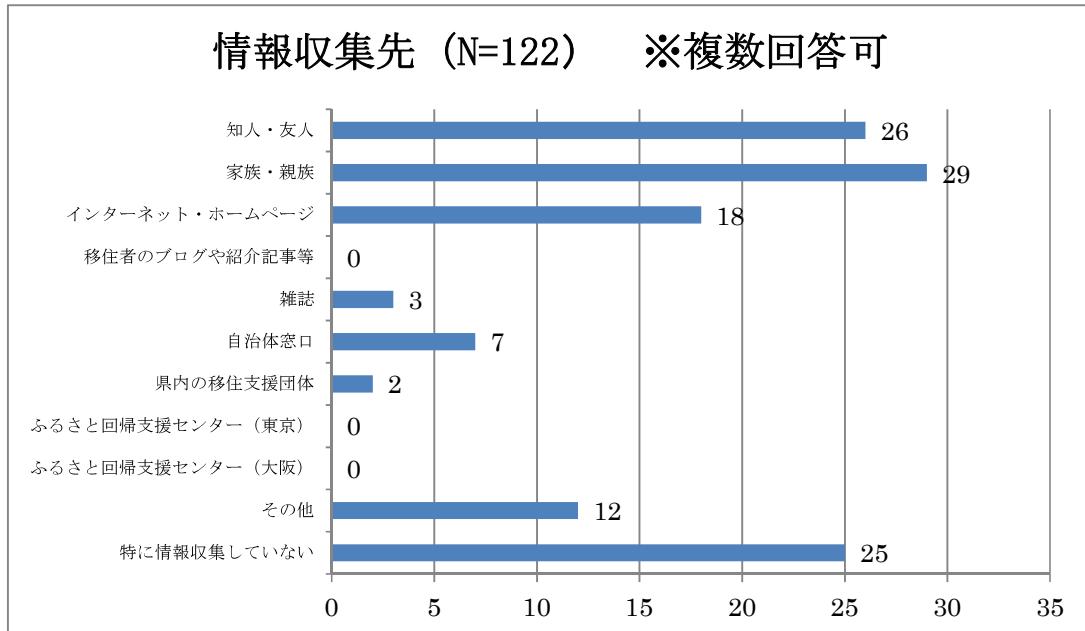
### ・転入するにあたり重要視した項目



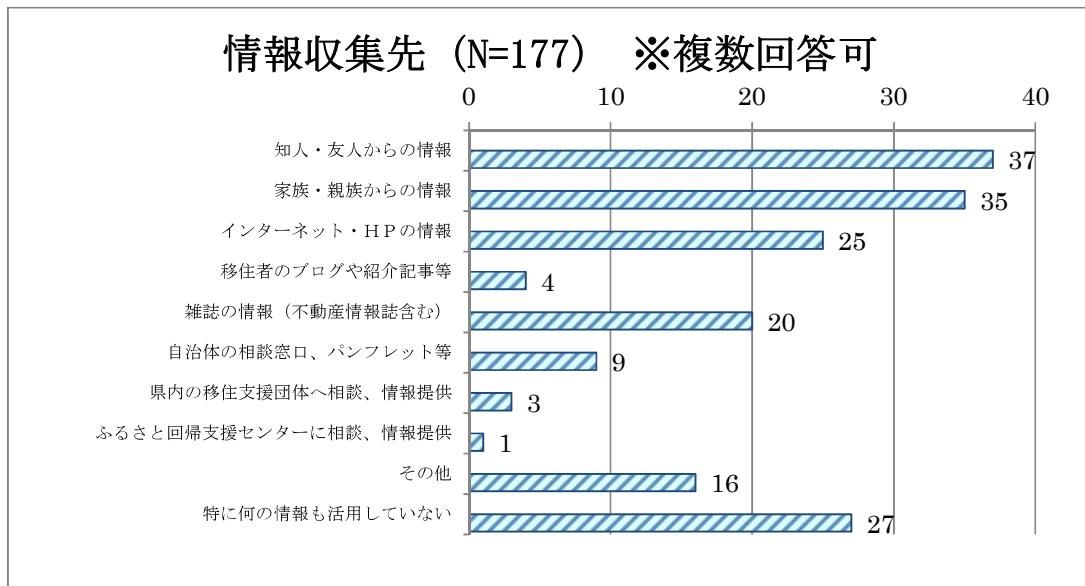
「職場、学校の近さ」が全市町で最も回答が多い結果となった。

## 2-5 転入（移住するにあたっての情報収集先、利用した制度等）

### ・移住者の情報収集先



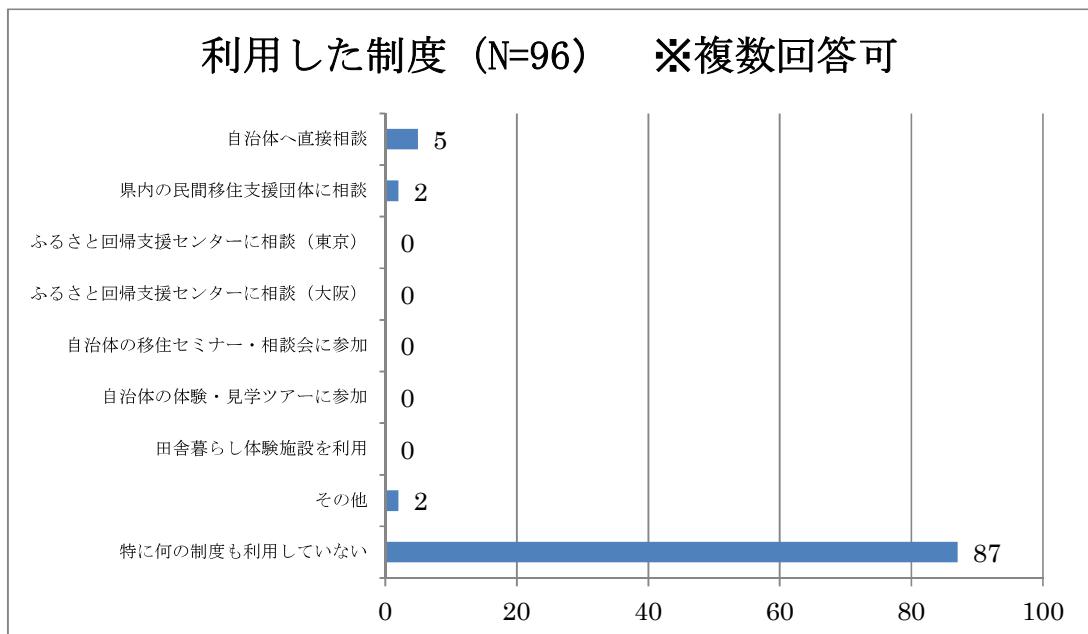
### ・参考（平成29年度）



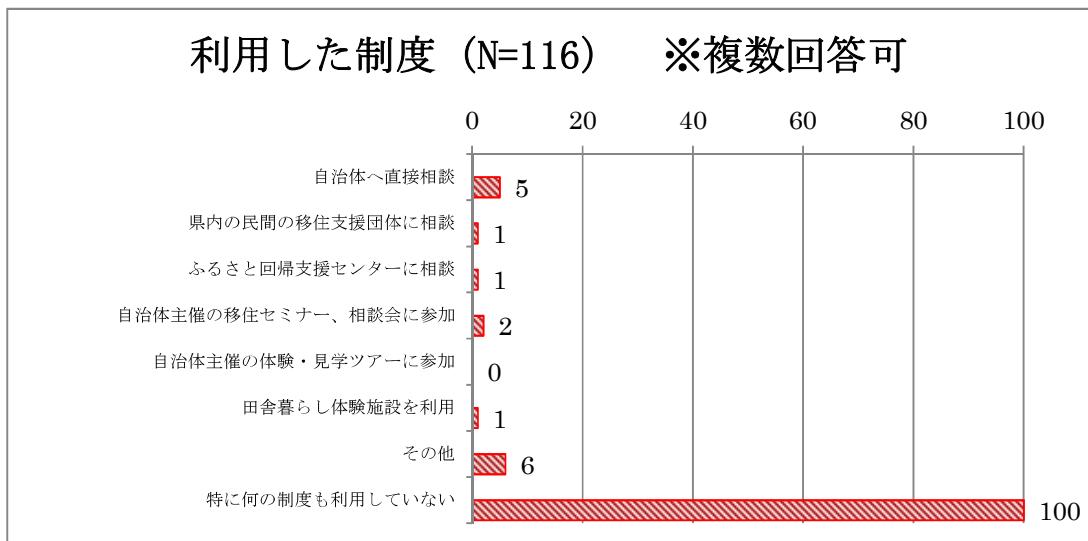
「家族・親族」や「知人・友人」から情報を得ている場合が多く、次いで「インターネット・ホームページ」から情報を得ている場合も多いが、一方で「特に情報収集していない」場合も多い結果となった。

移住者の情報収集先は、大きく変化していないことが分かる。

・移住するにあたり利用した制度



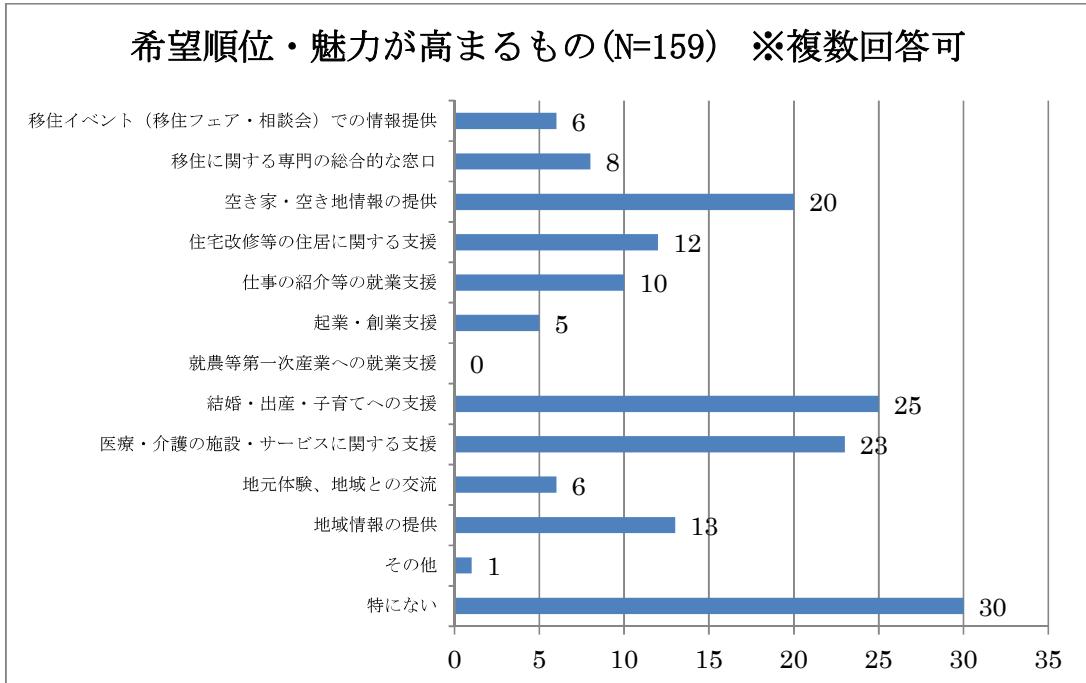
・参考（平成 29 年度）



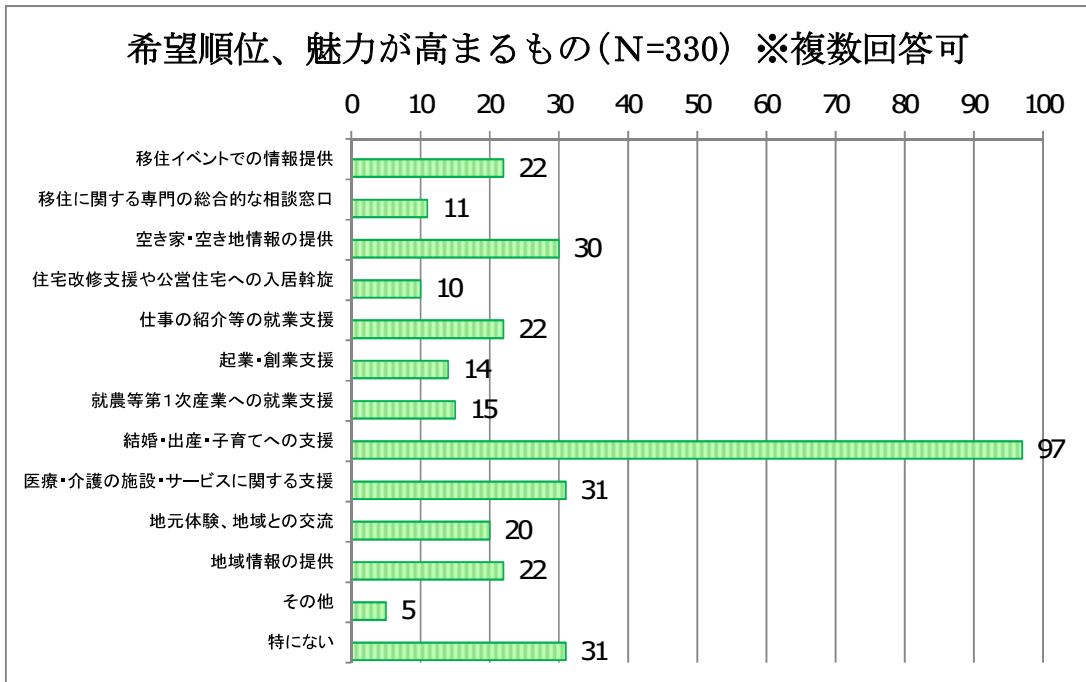
「特に何の制度も利用していない」が最も多い結果となった。

平成 29 年度には「ふるさと回帰支援センター」、「自治体主催の移住セミナー、相談会」および「田舎暮らし体験施設」が利用されたが、平成 30 年度の移住者については利用されていなかった。

- ・移住候補地として希望順位および魅力が高まるもの



- ・参考（平成 29 年度）

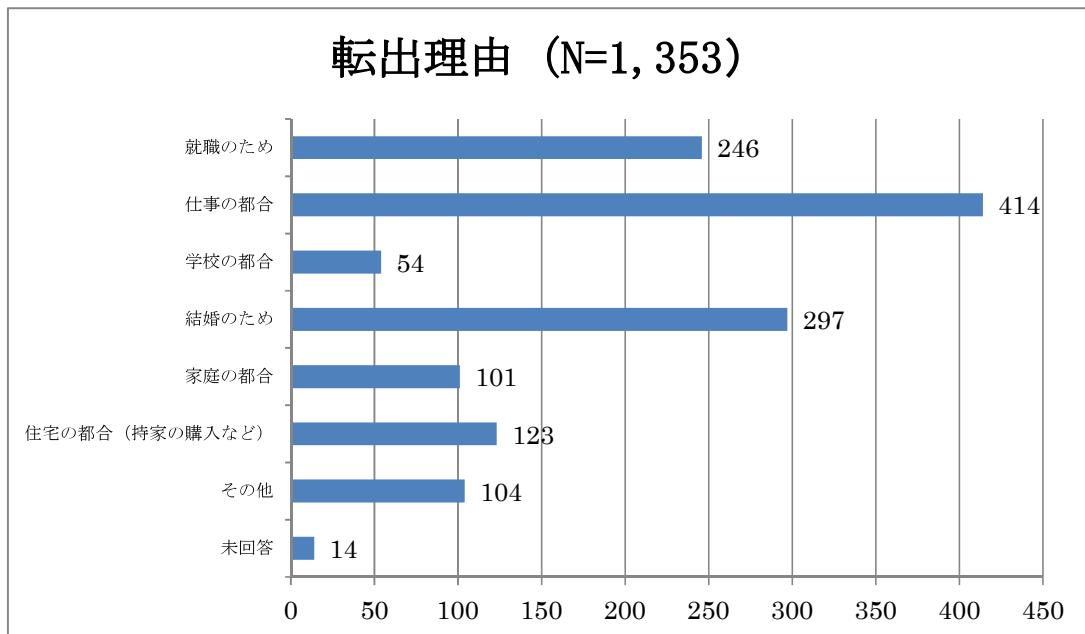


「特にない」を除いて「結婚・出産・子育てへの支援」、「医療・介護の施設・サービスに関する支援」、「空き家・空き地情報の提供」が多い結果となった。

平成 29 年度の回答で上位となった項目が、平成 30 年度についても上位となった。

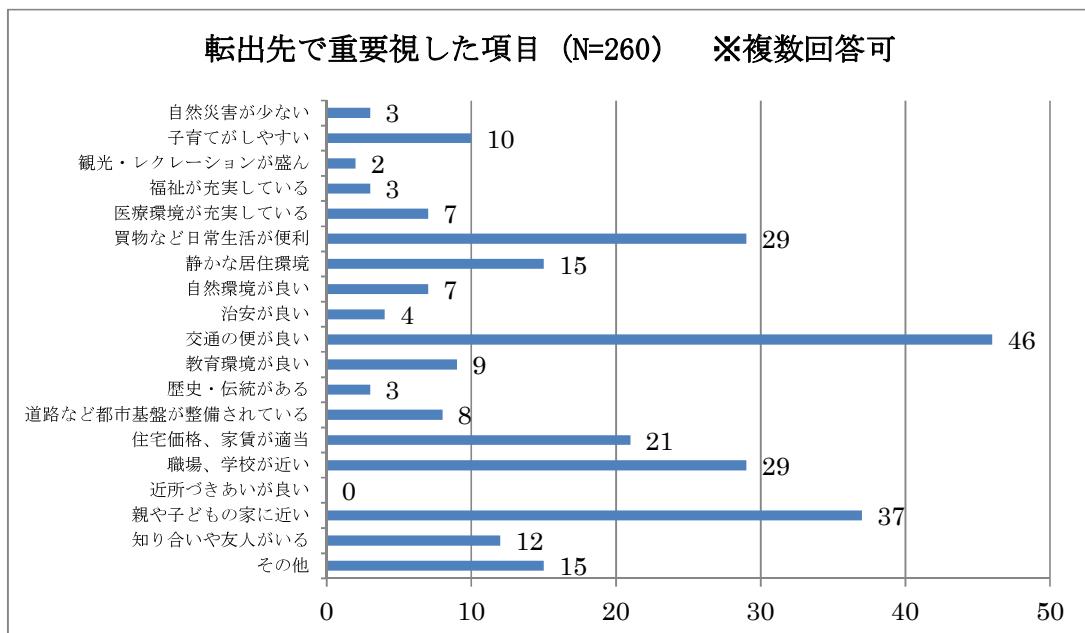
### 3-1 転出（滋賀県からの転出理由および転出年齢）

#### ・滋賀県からの転出理由



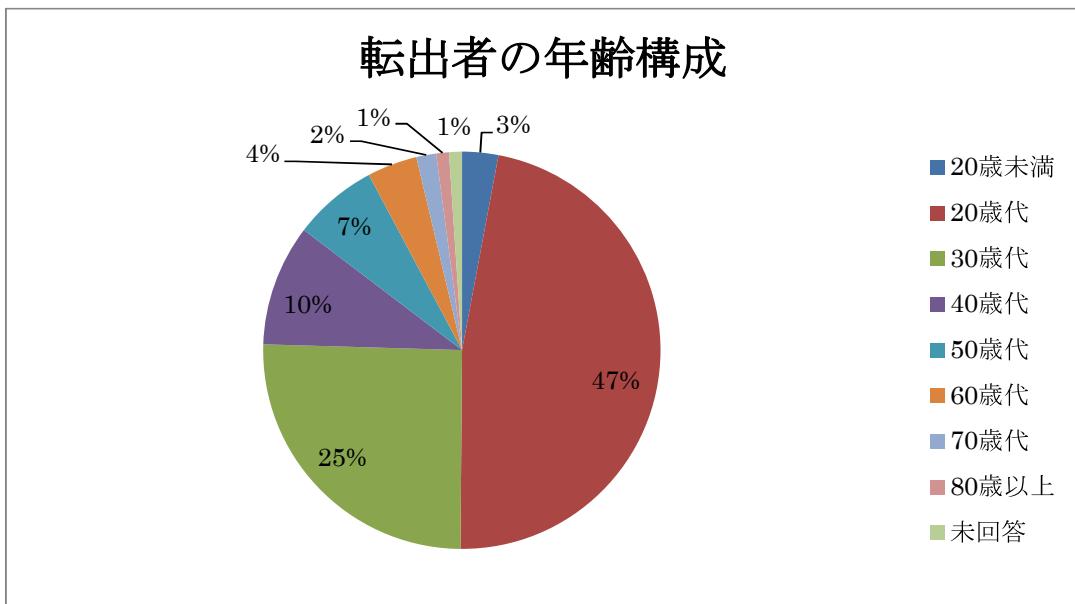
「仕事の都合」が最も多く、次いで「結婚のため」、「就職のため」が多い結果となった。

#### ・転出先を選ぶにあたり重要視した項目（住宅の都合と回答した場合のみ集計）



「交通の便が良い」が最も多く、次いで「親や子どもの家に近い」が多い結果となった。

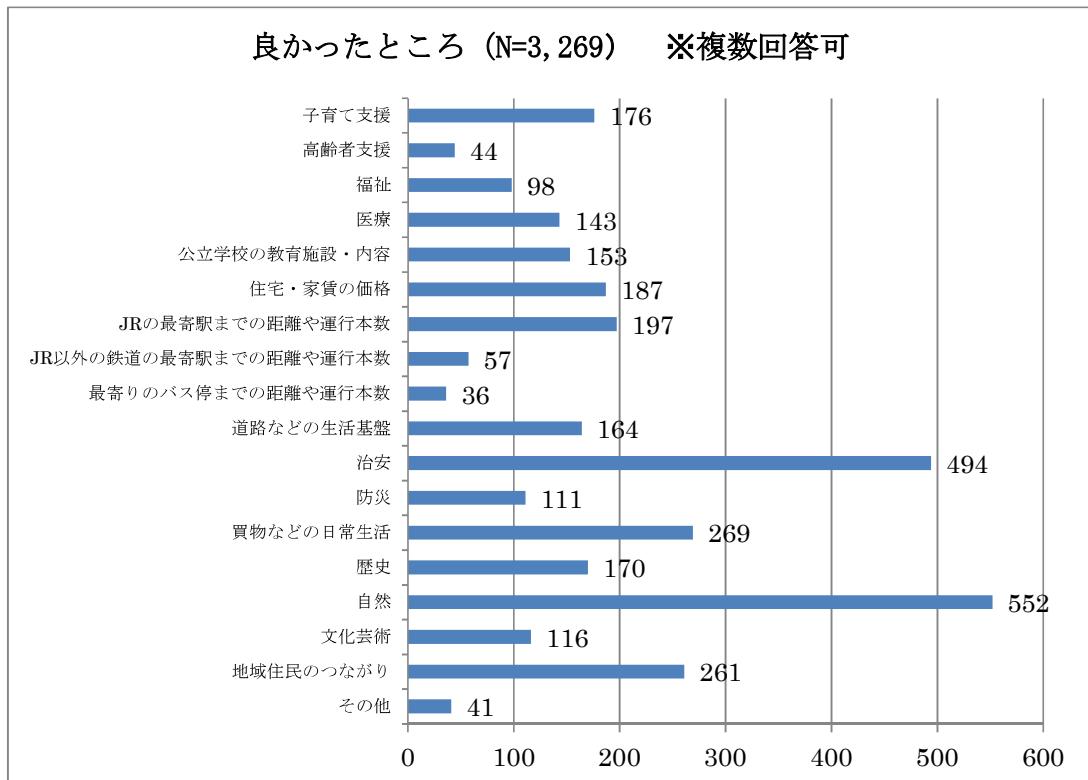
・転出者の年齢（世帯主）構成



「20歳未満」、「20歳代」および「30歳代」をあわせると全体の4分の3を占める結果となった。特に「20歳代」の転出が多い。

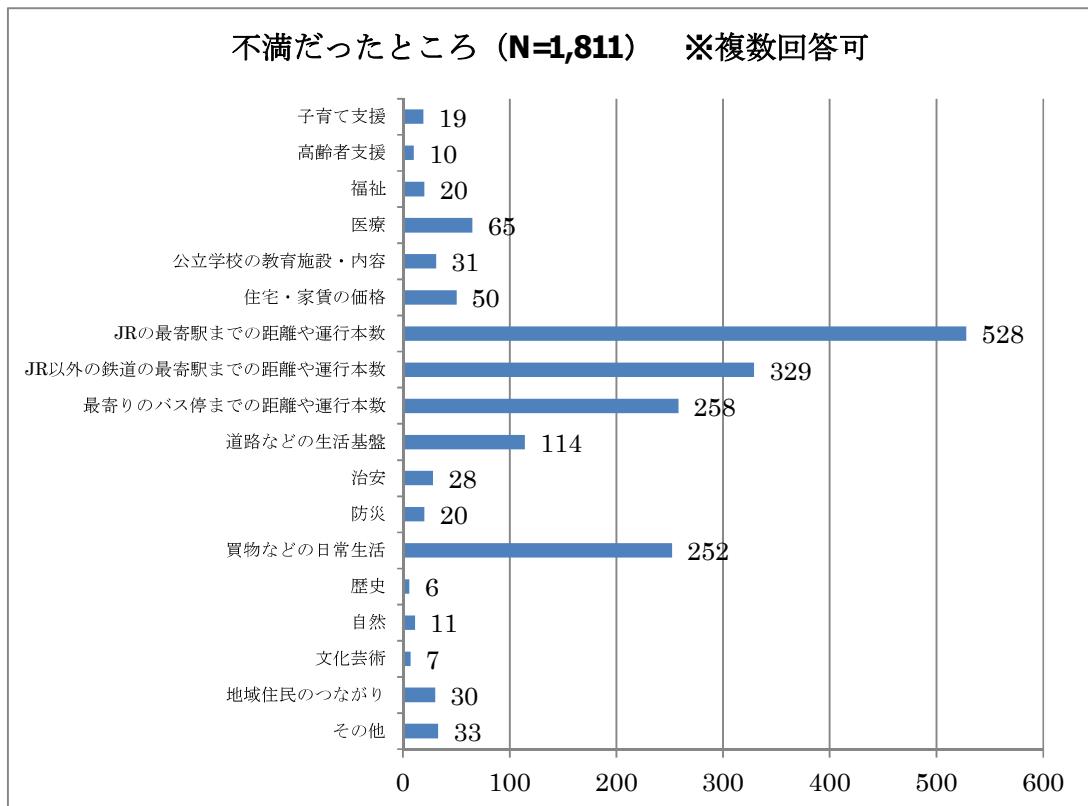
### 3-2 転出（住んでいて良かったところ、不満だったところ）

- ・住んでいて良かったところ



「自然」および「治安」の回答が多い結果となった。

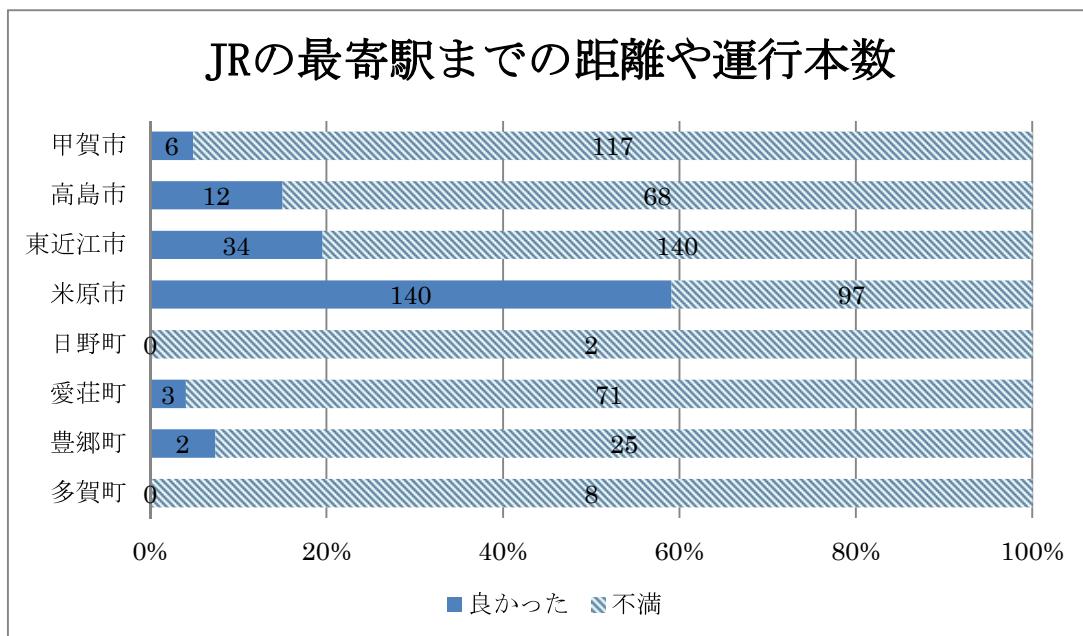
・住んでいて不満だったところ



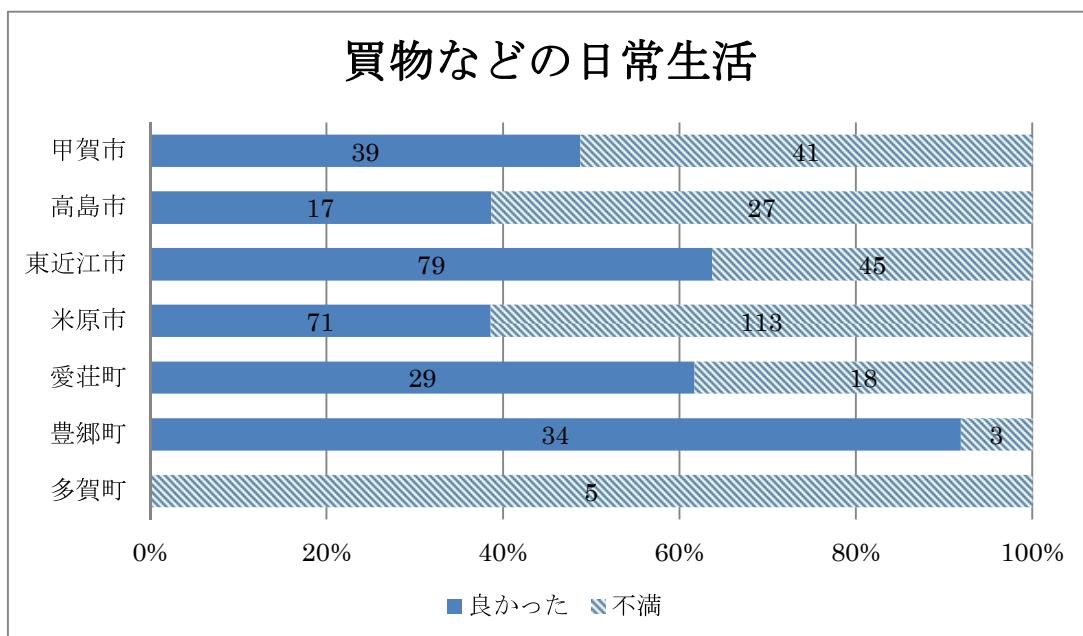
「JR の最寄駅までの距離や運行本数」が最も多く、次いで「JR 以外の鉄道の最寄駅までの距離や運行本数」、「最寄りのバス停までの距離や運行本数」が多い結果となった。

全体的に交通の便に対しての不満が多いが、その他の項目についての不満は、それほど多くはない。

### 3-3 転出（主要な項目の良かったところ、不満だったところの回答割合）



米原市では「良かった」の割合が多いが、その他の市町では「不満」の割合が多い。



米原市および多賀町を除く市町で、日常生活では、交通の便と比較して不満と回答する割合が少なくなっている。